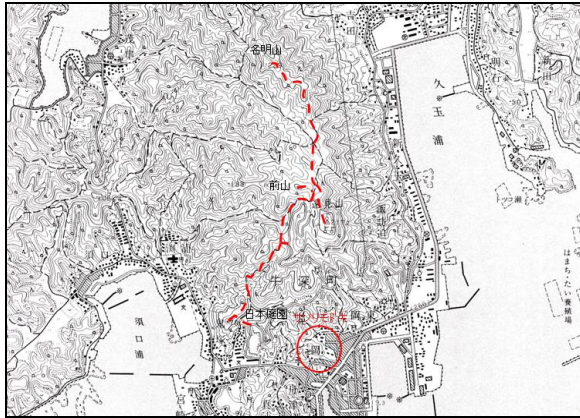


牛深名明山(229m)とサソリモドキ観察



久玉浦から名明山



牛深公園日本庭園から出発



ムサシアブミ (中央に花茎結実)



H27. 6. 28(日) 14名参加 (PV・天草山岳会共催)

1号車-KN(PV)、KH、KM、TY、SY(PV)

2号車-NM(PV)、IM(PV)、YK、NT

現地-SM、YN、KM、TA、SY

6/28 曇後晴 8:00 天草市役所 9名出発, 9:05 牛深公園日本庭園 5名合流, 9:23 登山開始, 10:22 前山, 10:39 稜線左折, 11:08 名明山(弁当), 11:50 下山開始, 12:28 遠見山, 12:45 出発, 12:56 車道から山道へ, 13:19 日本庭園, 13:45 サソリモドキ観察, 15:03 牛深出発, 16:00 本渡解散, 参加費 95km500円(資料代, 写真代, 車代還元 1000円)

念珠嶽清掃・シライトソウ観察登山の際に牛深在住の会員 SM さんにサソリモドキを見たことがあるか尋ねたところ「家の近くに居るよ」との返事だったので、名明山(なめいやま)登山とサソリモドキ観察を計画した。

天草自然公園ボランティア協会との共催となり、前日まで梅雨の雨空が続いていたが当日は晴天の予報で、本渡から9名車2台で出発し牛深公園で5名が合流して14名になった。

KNさんの指導で準備体操の後、SMさんは「月一二度は登っている」との事なので案内をお願いした。日本庭園入口から左側を通り、階段を登って展望台から須口浦を一望する。少し引き返して谷沿いの道を登る。道の両側に地籍調査の境界杭が打っており里道(りどう)であることが分かる。前日までの雨のため水が多く、道はぬかるみ滑り易い。

ヤマミョウガ、ハナミョウガ、ムサシアブミ、コクランなどの植物が見られた。

ムサシアブミは登山道に多く、根元から伸びた花茎には花が終り緑色に結実していた。ムサシアブミはサトイモ科、葉がやや大型で三出複葉(三枚の葉)からなるのが特徴で林床や谷筋に生育する。名前の由来は花の形が鑑(あぶみ)に似ており、鑑が武蔵の国の特産品として知られていたから付けられたと言われる。

前山山頂(200m)



稜線を歩く



名明山山頂(229m)



サソリモドキ(クモ綱サソリモドキ目)



登山道を左折して前山山頂(200m)に登る。南に遠見山が見えて、西に茂串海岸とその沖に大島が見える。ウミガメの産卵も見てみたいと話しながら少休憩した。

分岐へ引き返し、左折して進む。稜線に出て右遠見山、左名明山の標識がある。メジロが騒がしい鳴き声をたて、たくさんの鳥類をIMさんが説明して下さった。

この付近にオオバノトンボソウ、ナギラン、キクラゲなどが見られた。稜線歩きは気持ちの良い風が吹き付け、右側は急斜面となり久玉浦と久玉の街並みが見える。山頂付近まで段々畑の跡が残り、木々が生い茂っていた。

ようやく名明山山頂(229m)に到着し記念写真を撮る。写真に写っている三角点は国土地理院の三角点ではない。名明山は牛深在住のSさん方が整備したとのことだった。同行したSMさんの飼い犬「ハッピー」と野ら犬「サイゾー」二匹と共に弁当を食べる。山頂では複数の蝶やトンボが乱舞していた。

名明山を後に道を引き返す。遠見山分岐を直進して遠見山(217m)に登る。天気も良くなり暑くなってきた。牛深港とハイヤ大橋が眼下に見渡せる絶景。

遠見山番所跡(烽火場跡)の写真を撮り、車道を下る。途中から山道に入り、登山道を日本庭園へ下る。

次はサソリモドキを捜しにSMさんの家へ向かう。KNさんが倉庫の付近で植木鉢などを移動してサソリモドキを発見し歓声上がる。酢酸のような臭いを発して警戒している。さらに家の裏から二匹が見つかった。これはすごい、牛深では家の周辺に普通に居るようだ。早速何枚も写真を撮った後解放した。

サソリモドキはクモ綱サソリモドキ目に属する節足動物の総称。日本では伊豆諸島と九州南部から沖縄にかけてアマミサソリモドキと台湾サソリモドキの二種が生息する。昭和39年熊本県指定天然記念物に指定され採取や移動など禁止されている。(N)